

説教要旨「託された思い」



ルカによる福音書2章21～40節

イエス様の両親は、生まれて間もないイエス様を神様に献げるためにエルサレム神殿へと詣で、そこでシメオンとアンナという2人の老人がイエス様と出会いました。シメオンもアンナも、慰めと救いが見いだせない状態に長くおかれており、慰めと救いを待ち望みつつ生きてきました。その2人が、この幼子に神の救いを見いだしたのです。シメオンは「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり、この僕を安らかに去らせてくださいます」と喜びをもって歌い、アンナは神を賛美して人々に伝えたのです。

イエス様がイスラエル人の長男として神様に献げられることによって、万民のために整えられた救い、異邦人を照らす啓示の光が実現します。最初の収穫を神様に献げることは、自分の営みの実りを自分の欲望の満足のために用いるのではなくて、神様に献げることによって、その実り全体が神様の祝福の下に置かれる、そこに与えられる本当の満足、喜び、安らぎがここに始まるのです。この神様の救いが実現するために、長男であるイエス様は苦しみを受けることとなります。そのことをシメオンは同時に見つめ、母マリアに祝福と共に語りました。イエス様は「反対を受けるしるしとして定められている」と。生まれて間もないイエス様には、十字架につけられ殺される運命が待ち受けています。しかし、それが必要なことだと、そのことを通してこそ、イエス様による救いは実現するのです。

自分の思い、欲望を満たすことを優先し、貪欲に支配されて生きている。そのために真なる拠り所である神様を見失い、隣人を信頼することもできなくなり、疑心暗鬼の中で右往左往してしまう。そういったわたしたちの罪が、キリストの十字架においてあらわになります。そして、罪があらわになると同時に、その罪を神様の独り子イエス・キリストが背負って、私たちのために十字架の苦しみと死を引き受け、わたしたちのために身代わりとなって死んで下さったことも明らかにされるのです。そのことによって、神様が万民のために整えてくださった救いが実現するのです。

(2023・1・1 説教者：稲垣真実)